

NEWS RELEASE

各位

取材依頼

2021年10月1日

ニッポンハム食の未来財団
2020年度研究助成事業の成果報告会を開催
開催日:10月12日(火) Web併用方式で開催

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団(事務所:茨城県つくば市、理事長:岩間 清)は10月12日(火)、2020年度に実施した研究助成事業の成果報告会を開催いたします。

本研究助成は、対象領域を「食物アレルギー」に特化しているのが最大の特徴で、根本的な治療や予防法などが確立されていない現状を打開することを目指しています。助成区分として「個人研究助成」と「共同研究助成」の二区を設けています。「個人研究助成」は「食物アレルギー」の問題解決にチャレンジする若手研究者の育成を、「共同研究助成」は異分野(例:医学と食品)研究者の協働による「食物アレルギー」の問題解決を狙いとしています。

この度の報告会では昨年度に引き続き、「個人研究助成」はWeb会議方式、「共同研究助成」は会場で口頭報告会を実施し、後者はリアルタイムでWeb配信もいたします。当財団では、省接触が求められる社会にあっても、本領域の研究者がこれまで同様に異分野や幅広い世代と交流できる場や機会を創出し、研究成果の一日でも早い社会実装を支援して参ります。

開催概要 (詳細は次ページ以降のプログラム参照)

■日時

2021年10月12日(火)

〈第一部〉個人研究助成 成果報告会 12時30分～14時40分(受付12時15分～)

〈第二部〉共同研究助成 口頭成果発表会 15時00分～17時10分(受付14時30分～)

■会場

・AP品川アネックス地下1階 I ルーム等(JR品川駅 高輪口 徒歩3分、詳細は4ページ参照)

■報告者

2020年度研究助成事業採択者(個人研究助成;17名、共同研究助成;5名)

■報告方法

- ・個人研究助成;Web会議形式による成果報告
- ・共同研究助成;口頭報告(Webにて同時配信)

◆公益財団法人ニッポンハム食の未来財団◆

食物アレルギー対策を加速させ、全ての方に「食べる喜び」を感じて欲しいという強い想いから、2015年1月に日本ハム株式会社により設立されました。2017年4月に、公益法人としての認定を受けて活動しています。研究助成事業の他、「食物アレルギー対応食 料理コンテスト」、「栄養士や保育者向けセミナー」、「Webを通した情報発信」を行っています。

大変恐縮ですが、当日取材くださる方は、10月8日(金)までに
4ページ目のFAX 返信用紙にてお申込みください。

※リリースに関する問い合わせ先

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団 小泉・沖浦まで

TEL 029-893-4466 FAX 029-893-4360

info@miraizaidan.or.jp

時 間：12時30分～14時40分(報告者がWeb上で報告、質疑応答及び情報交換を行う時間)

場 所：AP品川アネックス 地下1階 Pルーム

報 告 者：2020年度研究助成事業 個人研究採択者

参加方法：課題毎に割り振られたWeb会議用URLにアクセスいただく形です。

URLの一覧は、参加申込いただいた方に、当財団よりメールでお送りいたします。

Web会議への時間内の入退は自由です。

Web会議システムはZoomミーティングを使用いたします。

ご自身のパソコンからご参加いただくことも、当財団が会場内に準備する共用パソコンからご参加いただくことも可能です。

会場内に無料Wi-Fi環境がございます。

時間	氏名	所属機関	課題名
12:30 ～ 13:10	池ノ内順一	九州大学大学院理学研究院 教授	消化管上皮細胞のタイトジャンクションの人為的強化法の開発
	梅本英司	大阪大学医学系研究科 免疫制御学 准教授	腸内細菌由来の代謝物による経口免疫寛容誘導機構の解析
	岡田祐樹	昭和大学医学部 小児科学講座 講師	小麦アレルギー経口免疫療法における維持期の摂取回数と耐性獲得との関係
	河原隆浩	広島大学大学院 医科系科学研究科 免疫学 大学院生	経皮感作食物アレルギーモデル確立と脂肪酸摂取によるアレルギー制御
	小谷仁司	島根大学医学部医学科 免疫学講座 講師	制御性T細胞の分化制御に関わる核内受容体に作用する食品由来成分の探索と有効性解析
13:15 ～ 13:55	小西瑞穂	国立成育医療研究センター研究所 研究員	心因性食物アレルギー形成の解明と寛解プログラムの作成ー食物アレルギーの真の寛解へー
	佐藤賢哉	公益財団法人実験動物中央研究所 マーモセット医学生物学研究部 研究員	コモンマーモセットを用いた食物アレルギーモデルの確立と前臨床評価系への応用
	清水 裕	北海道大学大学院 水産科学研究院 技術専門職員	メイラード反応が魚肉アレルゲンの消化・吸収性に及ぼす影響の解明
	杉浦至郎	あいち小児保健医療総合センター アレルギー科 医長	複数の重症食物アレルギーを有する児に対する同時緩徐微量経口免疫療法 Simultaneously slow low dose oral immunotherapy: SSLOIT (wSLOIT)
	中野泰至	千葉大学医学部附属病院 小児科 助教	乳児期のビタミンD投与によるアレルギー予防に関する研究開発
14:00 ～ 14:40	野村孝泰	名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学 病院助教	胃食道逆流に注目した牛乳アレルギーモデルマウスの免疫機序の解明
	牧田英士	自治医科大学附属さいたま医療センター 小児科 助教	少量経口負荷試験による食物アレルギー児の保護者の不安軽減効果の検討
	松本健次郎	京都薬科大学 准教授	温度感受性TRPV4チャネル制御による食物アレルギー予防方法の検討
	森田英明	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 室長	重症消化管アレルギーの病態解明
	森 雄司	藤田医科大学ばんだね病院 小児科 助教	重症果物アレルギーの感作機序に関する研究
	山下弘高	岐阜薬科大学 薬理学研究室 講師	食物アレルギーにおける経皮感作と経口免疫寛容のバランスの解明
	春里暁人	京都府立医科大学消化器内科 助教	食物アレルギー予防を目指した食品成分による腸内環境制御法の開発

時 間：15時00分～17時10分

場 所：AP品川アネックス 地下1階 1 ルーム

報 告 者：2020年度研究助成事業 共同研究採択者

(感染症対策等により、リモート報告になる可能性もございます。)

参加方法：会場にて口頭報告を聴講ください。

15 : 00 開会挨拶

15 : 05～15 : 25 食物アレルギーにおける免疫記憶の機序解明およびその制御法の開発

安達 貴弘
東京医科歯科大学 難治疾患研究所 准教授

15 : 25～15 : 45 主要アレルゲンMal d 1 の日本産リンゴ品種における定量および経口負荷試験結果を
基にした食事指導への展開

沖嶋 直子
松本大学 人間健康学部健康栄養学科 専任講師

15 : 45～16 : 05 小麦アレルギーの包括的ゲノム関連解析とT細胞エピトープの同定

野口 恵美子
筑波大学医学医療系 教授

16 : 05～16 : 20 (休憩15分)

16 : 20～16 : 40 給食施設での調理時の小麦アレルゲン混入リスクに関する研究

橋本 博行
三重短期大学 教授

16 : 40～17 : 00 食物に対する経消化管感作の機序、特にIL-25の役割の解明

松本 健治
国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 部長

17 : 00 閉会挨拶

17 : 05 写真撮影

【報告資料（両部共通）のWeb公開】

https://www.miraizaidan.or.jp/specialist/grants/2019/02_event.html

※10月1日（金）10時より報告要旨を公開いたします。



FAX 029-893-4360

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団 行き
(問い合わせ先 TEL:029-893-4466)

2020年度研究助成事業 成果報告会

日時:2021年10月12日(火)(12:15～; 地下1階 I ルーム前 受付までお越しください。)

場所:AP品川アネックス(下図参照)

《第一部》 個人研究成果報告会 いずれかの番号に○印をお願いいたします。

12:30～ 地下1階 Pルーム

ご出席 / ご欠席

《第二部》 口頭成果報告会 いずれかの番号に○印をお願いいたします。

15:00～ 地下1階 Iルーム

ご出席 / ご欠席

貴社名	
貴部署名	
お名前	
電話番号 / FAX番号	/
E-mail	
備考(撮影の有無)(注)	

(注1) 報告内容、データに関する写真撮影及び動画撮影は、固く禁止させていただきます。

(注2) 写真撮影は、17時05分から予定している「写真撮影」時の「報告者 及び 当財団関係者」の集合写真に限らせていただきます。

会場案内図



【所在地・電話番号】

〒108-0074

東京都港区高輪3丁目23-17

品川センタービルディング1階・地下1階

Tel:03-5798-3109

Fax:03-5475-8109

※「高輪口」から右手方向に約3分です

【交通アクセス】

東海道新幹線・JR東海道線・JR山手線・
JR京浜東北線・JR横須賀線・京浜急行線
をご利用の場合

「品川駅」より徒歩3分

※羽田空港からは京浜急行快特で
品川駅まで16分